

## 【冒頭】

- 北朝鮮は挑発行動を加速。国際社会は一致結束して対抗する必要あり。
- 昨12月、私(大臣)が議長を務める中で国連安保理閣僚級会合を開催し、核武装した北朝鮮は決して受け入れられないことを明確にした。

## 【① 新年以降の動向(南北対話・平昌五輪)】

- 日本政府は平昌五輪への北朝鮮の参加に関する最近の南北対話を歓迎。その上で、北朝鮮が核・ミサイル計画を執拗に追求している事実から目を背けるべきではない。対話に関与する構えの北朝鮮に報いるべきとの主張もあるが、北朝鮮は核・ミサイル計画を継続するための時間稼ぎを意図。

## 【②北朝鮮の狙い】

- 北朝鮮の行動についての我々の期待ではなく、実際の行動によって北朝鮮の意図を判断すべき。
- 具体的には、いずれかの国からの制裁解除や何らかの財政的支援、米韓合同軍事演習の中止、各国間の離間を狙っている。また、思い通りに南北対話が進展しなければ、北朝鮮は他国を批判し、更なる危険な挑発行為を強行する口実にするかもしれない。
- この会合の最中にも、北朝鮮の核・ミサイル開発は進んでいる。北朝鮮の「微笑外交」に目を奪われてはならない。今は圧力を緩和するときでも、北朝鮮に報いるときでもない。

## 【③国際社会として目指すべき方向性】

- 国際社会の制裁は徐々に効果をもたらしている。洋上での船舶間取引数の増加はその現れ。本年は更なる成果を生む可能性が高い。北朝鮮が対話に関与していることは制裁が機能している証左。
- 今は、各国独自の措置(北朝鮮との外交関係断絶、北朝鮮籍労働者の送還を含む)を強化しつつ、関連国連安保理決議を完全かつ厳格に履行するとの決意を新たにするとき。こうした措置を通じてのみ、北朝鮮の政策を変えられる。ヨルダンによる北朝鮮との「外交」関係断絶の決定を高く評価。他国がヨルダンに続き、更なる措置をとることを期待。

## 【結語】

- 核・ミサイル計画及び拉致問題の解決に関して前向きな動きなし。本日の外相会合は、朝鮮半島の完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な非核化を達成するための国際社会の断固とした意思を示す時宜を得たもの。